

## ミニデイ【おとこの台所 桜新町だより】

発行責任者 桜新町広報：柏木君夫、岡元正史

### ● 三船 敏郎 <世界の"ミフネ">

戦後、日本映画界の最高の男性スターであり、欧州の国際映画祭で数々の賞を受賞した日本人初の国際スター。

デビュー作は、厳冬の雪山を舞台にした「銀嶺の果て」（1947年8月5日公開）。

銀行強盗の凶悪犯三人が、北アルプスの白馬八方尾根に逃げ込む。途中、一人が雪崩に巻き込まれて亡くなり、志村喬と三船敏郎が山小屋にたどり着く。山小屋には、小屋の爺の高堂国典と孫娘の若山セツ子、宿泊客で登山家の河野秋武の三人。志村喬は、清らかな白銀と山小屋の三人に触れて、やがて浄化されていく。

警察に追い詰められた三船敏郎は、志村喬と河野秋武をピストルで脅し、厳冬の北アルプスを越えて逃亡を試みる。そして…（続きはDVDで）。

● 監督：谷口千吉。黒澤明と東宝の同期入社。

● 脚本と編集：黒澤明。友情から脚本を担当。

フィルムの編集時に<三船敏郎>を見いだす。

● 音楽：伊福部昭。東京芸術大学・作曲科の講師。映画作曲家としてデビュー作。

● 製作：田中友幸。藤本真澄と並ぶ東宝の二大名プロデューサー。

三船は、撮影時。重い撮影機材を自ら率先して、誰に言われずに運び上げた。

三船を見習って、付き人を付けずに、自ら自分のことは何でも自分ですが、その後の東宝の特に男の俳優たちの伝統になった。

三船敏郎（本名）は、中国山東省青島に生まれた。

生家は、青島と遼寧省營口で写真館を営む裕福な家だった。

陸軍に徴兵され、写真技術を買われて、航空写真から地図を起こす任務に就く。

戦後、復員した三船。東宝ニューフェイスの第一期生である。

「可笑しくもないのに、笑えません」。面接で反抗的な態度に落とされかけたが、審査員だった女優の高峰秀子が、黒澤明に「一人、凄いのがいるのよ」。

審査委員長の山本嘉次郎監督（「ハワイ・マレー沖海戦」1942年公開）の二人の口添えで、三船は4,000人という難関を突破して、何とか補欠で合格。

俳優の研修時、三船が白いタイツ姿で、嫌々ながらクラシック・バレエをしている写真が残っている。のちの 三船 敏郎 <世界の"ミフネ"> である。



これからの予定 8月の予定はありません。

メンバーがワクチン接種を終えて、早く活動が再開できるよう！